

## ～浸水時の避難術～

### 四国地方防災エキスパート

津波災害防災士 (CDR 認定)、技術士 (総合技術監理部門、建設部門) 松尾裕治

短時間で猛烈な雨が降る集中豪雨、今年もまた愛知県岡崎市など全国各地で集中豪雨による被害が発生しています。悲惨なのは浸水時の移動などで人が亡くなっていることです。この頻発する集中豪雨による水害の観点から学ぶべき水害があります。平成13年9月、高知県西南部に発生した高知県西南部豪雨災害です。

平成13年の9月6日の未明、四国足摺岬の西、高知県の西南部一帯では時間雨量が100mm前後の猛烈な雨が短時間に降った記録的な集中豪雨になりました。



このため、宿毛市、土佐清水市、大月町などを流れる2級河川がいずれも急に増水し、1000棟あまりの住宅が屋根近くまで水につかる洪水に見舞われました。60センチしかなかった川の水位がわずか3時間で10倍の6メートルにもなり、住民の多くがまだ寝ている間に溢れた川の水で道路や畑まで水没し、どこが川だったかわからなくなりました。文字通り「寝

- 伝授・住民の防災心得十箇条
- 一、日頃の人の絆を大切にすること。
  - 二、昔からの言い伝えに耳を傾けること。
  - 三、常に危険箇所を念頭に置いておくこと。
  - 四、高い位置に避難場所を考えておくこと。
  - 五、水害時には慌てて外に飛び出さぬこと。
  - 六、災害時には隣同士が連携して声を掛け合うこと。
  - 七、避難時には一人で行動せぬこと。
  - 八、浸水時の移動に際しては棒で水中を探りながら歩くこと。
  - 九、防災無線、電気、電話が使えぬ事態を想定すること。
  - 十、みんなが力を合わせて助け合うこと。

耳に水」の水害でありました。こんな水害を受けながら、1人の犠牲者も出ませんでした。その秘訣は住民の行動の中に凝縮されています。住民の皆さんの体験談をもとに災害時の行動をお手本として「住民の心得10カ条」をまとめました。是非、皆さんに参考にしてほしい浸水時の避難術があります。第7条、第8条に「避難時には一人で行動せぬこと」「浸水時の移動に際しては、棒で水中を探りながら歩くこと」という住民の方が水害現場で得た防災術です。

一旦、川が氾濫すると泥水で道路と水路が識別できなくなり、8月29日愛知県岡崎市の水害のような自転車が水路に落ちたり、人が水路に落ち行方不明になったり水死するようなことが近年たびたび起こっています。最近の洪水時の死亡原因のおよそ2割は、家の近くの側溝など、ちょっとしたところに足をとられてしまうことであるという報告もあります。

### 浸水時の避難は「さぐり棒」をもて



浸水時に避難する時は、絵のような「さぐり棒」を持って、その棒で前方を探りながら避難します。

棒は流れてくる木や危険なものを押しよける役に立ちます。棒はできるだけ片手で容易にあやつれる四国札所巡りの杖程度のものが望ましいですが、無ければ物干し竿でも良いです。

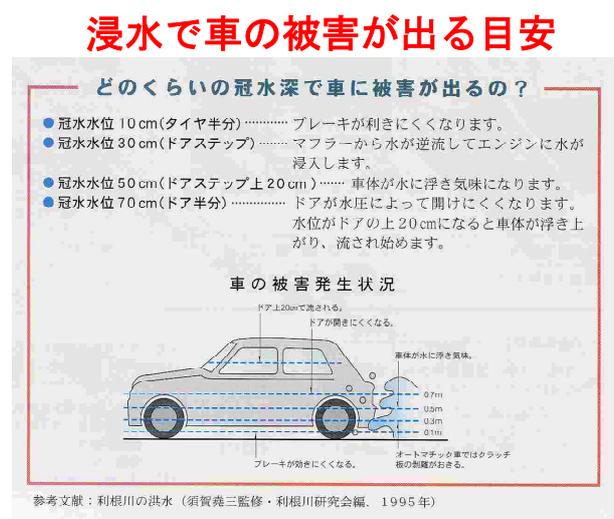
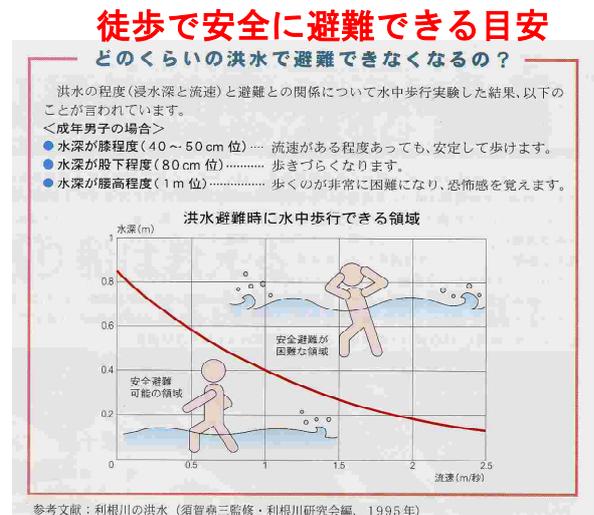
さぐり棒の役割は、道路、水路、側溝などの深みの区別を知ることです。また普段から側溝、マンホールなど家の周りの危険な場所を確認しておくことも大事ですが、どんなによく知っている場所でも、氾濫した泥水の中での判断は困難を伴います。このようにささいな道具である棒が、値千金の水先案内の役割を果たし私たちを危険から救ってくれるのです。

また浸水時に避難や移動するときは、必ず2人以上で行動するようにしていただきたいです。流されたり、深みに落ち込んだら1人では助かりません、助けを呼ぶこともできません。消息がわからなくなったりもします。

浸水時の避難や移動の際に、私たちが徒歩で安全に避難できる目安の浸水深があるので参考にしてほしいです。水深と流速との関係を求めた図「水中歩行実験の結果」です。成人男子の場合、流速が1 m以下であれば水深が「膝程度まで水中歩行できる」というものです。言い換えると膝以上の場合は避難することは危険を伴うので堅牢建物に留まるほうが安全であるという教えです。

また車で浸水している所を通過しようするのは非常に危険です。車が浸水で被害がでる目安があります。10 cm冠水した場合ブレーキがききにくくなります。30 cmではマフラーから水が逆流してエンジンに水が進入します。70 cmも浸かるとドアが開けにくくなり、最悪の場合、脱出できなくなります。今回の水害でも車で犠牲者がでています。冠水している道路には、浅い水深でも進入しないことが最も大切です。

最後に自主防災組織で様々な取り組みをされています防災リーダーの方には、浸水に備えて玄関先に「さぐり棒」の杖を用意しておくことや特別に準備をしておくことや特別に準備をしておくことや氾濫した中での行動には、必ず棒「ころばぬさきの杖」をもっていくことを多くの住民の方に教えてほしいものです。このような災害への備えは、住む地域の土地の条件によって軽重の差はあれ、災害の第1 当事者である住民の皆さん方が心得備えておくべきものです。



# かがわ自主ぼう秋季研修会のご案内

かがわ自主ぼう秋季研修会の記念講演は、前消防庁消防研究センター所長で関西学院大学総合政策学部室崎益輝教授による「地域の防災活動…明日の大災害に備える」です。今後の自主ぼう活動に大いに役立つことでしょう。研修終了後には「いも炊き」も予定しています。是非ご出席ください。

1. 日時 平成20年10月11日（土）

14:30～17:00 [14:00受付開始]

2. 場所 丸亀市川西町南307番地 サン・ビレッジ土器川大会議室

(TEL 0877-28-0766)

3. スケジュール

(1) 記念講演 (14:30～16:00)

・テーマ **「地域の防災活動・・・明日の大災害に備える」**

・講師 室崎 益輝関西学院大学総合政策学部教授

神戸大学名誉教授 工学博士

前消防庁消防研究センター所長



(2) 各種助成金申請のノウハウについて

(16:10～17:00)

- ・当日、参加者には、主催者より「いも炊き」を進呈
  - ・準備の都合がありますので10月7日（火）17:00締切
  - ・会場スペースの制約から110名様までの受付とさせていただきます
- <申込先> 763-0092 丸亀市川西町南428

川西コミュニティセンター

TEL&FAX 0877-28-5519

e-mail [josin-c@mail.netwave.or.jp](mailto:josin-c@mail.netwave.or.jp)